

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

G. ガリラヤへの第二の旅

3. イエスはすぐにしるしを求める要求を拒否するが、「ヨナのしるし」を約束する

デイリー・ジーザス・ニュース #089

基本テキスト: MT 12.38-45 (並行テキスト: なし)

38 すると、パリサイ人や律法学者たちがイエスに言った。「先生、私たちはあなたからしるしを見たいのです。」

39 イエスは答えて言われた。「*邪悪で不道德な時代は、常にしるしを求めます。しかし、預言者ヨナのしるし以外には、何も与えられません。*」

40 *ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にいるであろう。41 二ネベの人々は、この世代と共に審判の時に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。彼らはヨナの説教を聞いて悔い改めたからである。そして今、ヨナよりも偉大な者がここにいる。*

42 *「南の女王は、裁きのときにこの世代と共に立ち上がり、この世代を罪に定めます。彼女はソロモンの知恵を聞くために、地の果てから来たからです。しかし今、ソロモンよりも偉大な者がここにいます。」*

43 *汚れた霊が人から出て行くと、乾燥地帯をさまよい歩き、休み場を探し求めるが、見つからない。44 そこで、「出て行った家に帰ろう」と言う。そして帰ってみると、その家はきれいに掃除され、きちんと整えられていて、人の住まいもない。45 それから、自分よりも悪い他の七つの霊を連れ、そこに住み着いて住む。こうして、その人の最後は、最初よりもさらに悪いものとなる。*

この邪悪な世代もそうなるのです。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルカ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、*イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています*。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	2回ツアー、ガリラヤのどこか
タイムライン	5月 (16番目の月)
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	G. 第2回ガリラヤ巡礼

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

タイトル	3. イエスはすぐにしるしを求める要求を拒否するが、「ヨナのしるし」を約束する
------	---

コメント：

前の朗読で見たユダヤ教指導者たちの聖霊に対する冒瀆的な態度（マタイ12:22-27）は、イエスがメシアである証拠として、イエスのしるしを見ようとした彼らの要求によって、より明白になりました。これは、私たちの罪深さと他者への敵意が、いかに他者に対する認識を歪め、私たちが他者をどのように認識しているかと、その人の本質や性格との間に一致がなくなるかを示しています。私たちは、他者をありのままに見ることができなくなってしまうのです。

イエスに要求に応じて奇跡的なしるしを行うようにというこの要求には、深刻な問題がありました。まず第一に、それは全くの偽善でした。これらの人々は、イエスをメシアとして信じるつもりなど全くありませんでした。そもそも彼らは、イエスが悪霊に取り憑かれていたと既に信じていたのです！イエスはそのほんの数分前に、盲目で口がきけず、悪霊に取り憑かれていた男を瞬時に癒したのです。確かに「しるし」と言えるでしょう。しかし彼らはそれを神ではなく、サタンの力によるものだと考えていました。彼らはイエスがメシアであるという証拠を真に求めていたのではなく、ただ言葉を求めていたのです。

第二に、真の信仰は神の言葉の権威と真実性に基づくものであり、単なる奇跡の力に基づくものではありません。イエスは既にローマの百人隊長において、神に喜ばれるそのような信仰を見出していました（DJN #081）。主は、奇跡を行ったからといって人々に信仰を勧めることは決してありませんでした。ですからイエスはこう宣言されました。「**邪悪で不義な時代は常にしるしを求めます。しかし、預言者ヨナのしるし以外には、何のしるしも与えられません。**」

イエスはしるしを求めることを「**邪悪で姦淫的な**」態度と呼びましたが、「ヨナのしるし」を約束し、それを自らの死と復活として説明しました。信仰の基盤として、そして自らの神性の究極のしるしとして、救いの業を強調する姿勢は、イエスの宣教の初め（DJN #036）から終わりまで一貫していました。

一つ一つの奇跡は、イエスが神の救い主であるという究極の証拠、すなわち十字架上の死とそれに続く復活の、小さな兆候でした。これは、三位一体の神が、イエスが真に神であることをすべての人々に、そして永遠に示してきた証拠です。十字架と空の墓は、イエスが、ご自身を信じようとする世界中のすべての人々に差し出す「ヨナのしるし」です。

に与えられた「しるし」によって信仰を抱いた二つの歴史的事例を挙げました。最初の事例は「ヨナのしるし」です。この事例では、神は預言者ヨナを（二ネベの）人々に遣わしました。人々は神を全く求めておらず、神の存在に気づいていませんでした。しかし、ヨナが巨大なクジラに捕らえられたという証言と証拠に基づき、町全体が悔い改め、信仰に至りました。ヨナの証言と証拠よりもはるかに偉大なものが、イエスの生涯と宣教に存在し、イエスの死と復活において示されることになりました。

イエスは次に「シバの女王」について語られました。これは、神がソロモン王に与えられた知恵と偉大さの証しと証拠を聞き、自らその証拠を確かめるためにやって来た一人の探求者の例です。自ら進んでエルサレムへ行き、証拠を検証した彼女もまた、イスラエルの神を信じる者となりました。しかし、パリサイ人たち

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

がソロモンにさらなる要求をしていたにもかかわらず、ソロモンよりもはるかに偉大な方が、はるかに大きな証拠をもって彼らの前に立っていました。

イエスが強調した点は、ご自身の完全な人生、贖いの死、そして勝利の復活の証拠は、神を求めているにもかかわらず、福音の真理に突然直面した世界中の多くの人々を悔い改め、信仰へと導くのに十分すぎるほどであるということです。同様に、真理を真に知ろうと努めるすべての人にとって、この証拠は十分すぎるほどです。神への悔い改めと主イエス・キリストへの信仰は、イエスの生、死、そして復活の証拠に基づく、理にかなった、理にかなった決断です。

使徒パウロはアテネで次のように説教しました。

「神はかつてそのような無知を見遇しておられましたが、今はどこに住むすべての人に悔い改めるように命じておられます。神は、ご自身が任命した人によって、正義をもって世界を裁く日を定めておられます。神は、その方を死者の中から復活させることによって、すべての人にその証拠をお示しになったのです。」使徒言行録17章31-32節

イエスの死と復活への信仰を拒否するなら、すべての不信者は想像をはるかに超える悪い状態に陥ります。それは永遠に続く結果をもたらします。この世でイエスから離れて生きることよりもはるかに悪いのです。十字架につけられたイエスを罪からの救い主、復活した主の主として信じることを拒否することは、誰にとっても最悪の事態です。永遠に地獄で生きるかどうかは、私たち自身の選択です。だからこそ、イエスはパリサイ人たちが傲慢に、自信過剰に示していた盲目さ、そしてイエスと聖霊に対する冒瀆を深く憂慮されたのです。

応用：

イエス、使徒たち、そして初期の教会は、聖書の成就であるイエスの死と復活に基づいて、イエスを主と宣言しました。これは、イエスの生涯とメッセージの核心であり、今もなおそうなのです。これは、イエスの権威ある言葉への信仰の揺るぎない基盤です。

「ヨナのしるし」はあなたの信仰と日常生活においてどれほど中心的な存在ですか？